

共和党の躍進がもたらす債券市場への示唆

本稿は、共同チーフ・インベストメント・オフィサーである Gregory Peters が 11 月 6 日に執筆したブログ “The Market Implications Carried by the GOP Wave” の内容を PGIM ジャパン株式会社が要約し邦訳したものであり、情報提供のみを目的として作成されたものです。

<要旨>

大統領選の結果が予想以上に早く明らかになる中、市場は大きな反応を示したものの、我々は新たなパラダイムの到来というよりも、足元数週間の動きの延長だと捉えている。本レポートでは、共和党の躍進がもたらす金利とリスク資産に対する示唆について考察する。

金利に対する示唆：

- 金利は歴史的に広いレンジで推移していることを踏まえ、選挙前から我々はデフレーションに対して中立からやや弱気で見えていた。次期大統領であるトランプ氏が掲げる政策はインフレ圧力を高める一方、財政赤字の拡大を背景に国債増発が続くため、米国の金利には上昇圧力、金利カーブにはスティーブ化圧力がかかると予想する。
- より広範な視点では、成長とインフレの動向が世界的に乖離し、中央銀行の政策対応に違いが生じる可能性がある。この場合、米国外ではより緩和的な金融政策が実施され、欧州および新興国の現地通貨建債券がアウトパフォームするだろう。

リスク資産に対する示唆：

- 新政権による減税政策は短期的な株価上昇の根拠となり得る。しかし、株価は既に割高であることを踏まえると、これまでの選挙後とは異なり、長期的には強気な見方は続かない可能性がある。

信用リスクに対する示唆：

- クレジット市場では、スプレッドのさらなる縮小余地は限られる一方、拡大に対しては非常に脆弱である。我々は引き続きリスクは抑制しながら、キャリアの機会に注目している。
- 業種別では金融セクターを 선호するほか、足元スプレッドが拡大している MBS は、米国投資適格社債に対して魅力的に見えている。
- レバレッジド・ファイナンス市場においては、足元の割高さを踏まえ、信用力分析に基づく選別的な姿勢が重要である。金利上昇は高レバレッジの発行体に圧力をかけ、ディストレストの増加が予想される。

まとめ：

- 今後を見通せば、受け身な資産配分ではリスクに対してリターンが低迷する可能性がある。一方、債券セクター間の価値の乖離が生じ、様々な信用サイクルの段階において、豊富な銘柄選択の機会が生み出されていくことは、アクティブ運用の投資家にとって朗報である。

経済シナリオと各債券セクターの見通しについては、2025 年 1-3 月期のグローバル債券市場見通しの中で改めて言及したい。

データの出所(特に断りのない限り)：PGIM フィクスト・インカム、2024 年 11 月 6 日現在。

当レポートは、金融機関、年金基金等の機関投資家およびコンサルタントの方々を対象としたものです。すべての投資にはリスクが伴い、当初元本を上回る損失が生じる可能性があります。

留意事項

本資料に記載の内容は、PGIM フィクスト・インカムが作成した“The Market Implications Carried by the GOP Wave”をPGIMジャパン株式会社（以下当社）が要約したものです。PGIMフィクスト・インカムは、米国SECの登録投資顧問会社であるPGIM インクの債券運用部門です。

原文（英語版）と本資料の間に差異がある場合には、原文（英語版）の内容が優先します。

本資料は情報提供を目的としたものであり、特定の金融商品の勧誘又は販売を目的としたものではありません。また、本案内に記載された内容等については今後変更されることもあります。

本資料に記載されている市場動向等は現時点での見解であり、事前の通知なしに変更されることがあります。また、その結果の確実性を表明するものではなく、将来の市場環境の変動等を保証するものでもありません。

本資料で言及されている個別銘柄は例示のみを目的とするものであり、特定の個別銘柄への投資を推奨するものではありません。

本資料に記載されている市場関連データ及び情報等は信頼できると判断した各種情報源から入手したのですが、その情報の正確性、確実性について当社が保証するものではありません。過去の運用実績は必ずしも将来の運用成果等を保証するものではありません。

本資料に掲載された各インデックスに関する知的財産権及びその他の一切の権利は、各インデックスの開発、算出、公表を行う各社に帰属します。

本資料は法務、会計、税務上のアドバイスあるいは投資推奨等を行うために作成されたものではありません。

当社による事前承諾なしに、本資料の一部または全部を複製することは堅くお断り致します。

“Prudential”、“PGIM”、それぞれのロゴおよびロック・シンボルは、プルデンシャル・ファイナンシャル・インクおよびその関連会社のサービスマークであり、多数の国・地域で登録されています。PGIMジャパン株式会社は、世界最大級の金融サービス機関プルデンシャル・ファイナンシャルの一員であり、英国プルデンシャル社とはなんら関係がありません。

PGIM ジャパン株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第 392 号

加入協会：一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人投資信託協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会

PGIMJ113445

4008117-241107